



栃木県立足利南高等学校

平成 30 年度 総合学科通信 第 2 号

No.51

(2018/12/14発行)

一日体験学習

教頭 松野 哲也

平成30年8月2日に1日体験学習を実施しました。猛暑が予想されたため、急遽体育館の予定を冷房のある教室に変更して実施しました。当日は、足利・佐野を中心とした36校から、中学生556名、保護者313名に参加していただきました。

まず、生徒の作成による総合学科紹介ビデオの視聴してもらい、続けて教育課程や進路状況の説明、ホークスベリー高校との交換留学や東京インドネシア共和国学校との交流の概要説明、ライフプランの発表、卒業生による課題研究発表でした。次に、希望した中学生には英会話、陶器作り、白玉団子づくりなどを体験授業を受けていただきました。中学生のアンケートには、学校・学科の教育上の特色や内容が「よく・だいたい理解できた」：98%、この一日体験学習が「大変参考になった」：85%という評価をもらいました。在校生達が、それぞれの立場で立派に行動したことが、中学生に好印象を与えたようです。



青南祭

特別活動部長 厚木 範之

隔年開催の青南祭が8月31日(金・校内発表)と9月1日(土・一般公開)に開催されました。2学期始業式から開催まで準備する時間が限られてましたが、生徒達は、それぞれの役割や責任を自覚して行動ができたのではないかと思います。一般公開日の朝方の雨は生徒達の熱気に押されたのか開場後は雨に降られることなく無事に開催することができました。一般公開はチケット制で行われました。チケットを通しての来場者が1391名で、小中学生や来賓の方々等をいれるとさらに多くの方々に来場していただけたと思われ、来場の皆さんの期待に応える青南祭になったと思います。生徒達は催し物を通してクラスの絆や団結力が深まり、最高の思い出となりました。また部活動や委員会、有志による発表も素晴らしく足南生の生き生きとしたありのままの姿を見ることができました。



「文化祭を振り返って」

3年3組 高瀬 愛生 (佐野南中出身)

8月31日(金)・9月1日(土)の2日間青南祭が開催されました。1年生にとっては高校生となって初めての、2年生にとっては最初で最後の、そして私たち3年生にとっては高校生活最後の青南祭となりました。実行委員長の前にクラスの実行委員としてクラスの意見をまとめたり、準備を進めるにあたって大変なことばかりで、自分自身の進路に向けての準備とも重なって本当に焦ってばかりでした。しかし、青南祭一般公開当日雨も上がってお客さんもたくさん来てくださり、校内発表とは違った楽しさを味わうことができ、2日間ともとても楽しい思い出となりました。クラスの団結が深まり、自分自身の成長も感じることができました。本当に実行委員をやっていたら得られないことばかりで本当に心から実行委員長を務められてよかったと思いました。



修学旅行を終えて

2学年主任 森 紀子

台風24号の直撃に遭ったため那覇市内に延泊し、5日間の修学旅行となりました。皆様には大変ご心配をおかけしました。あれだけ勢力の強い台風でも、旅行会社や現地の方々、生徒、引率教員が力を合わせて対応できたことで、首里城の見学を除いて予定していた内容を全て実施することができ、とても幸運であったと感じます。主体性を引き出すために企画した9月28日のタクシー研修は、徐々に近づいてくる台風をにらみつつ、ドライバーの方々と生徒が相談しながら臨機応変に乗り切ってくれました。

きっと生徒達にとって忘れられない修学旅行となったのではないのでしょうか。平和の重要性、天災の脅威、友達の大切さなど、強く実感したはずです。この経験をこれからの人生の糧にもらいたいと願っています。



「沖縄で学んだこと」

2年2組 若林 玲奈 (協和中出身)

私達は9月26日から9月30日の間、沖縄に修学旅行に行きました。沖縄では歴史について学びました。沖縄に行く前に戦争について調べたり、映画を見たりしました。実際に行くと米軍の基地が目の前にあることや、平和講話で戦争を体験した方の話を聞くことで、とても胸が苦しくなりました。また、資料館に入ると、戦争で実際に使った爆弾やガマの写真が置いてあり、戦争の悲惨さを直に感じました。戦争は絶対に起こしてはいけないと思いました。

修学旅行で一番印象に残ったことは、関東では味わうことの出来ない沖縄の台風を体験したことです。感じたことの無い強い風や雨に驚きました。沖縄の人は何回も台風を経験していて大変だと思いました。沖縄での5日間で貴重な体験が出来て良かったです。「みんないつでもHAPPY SMILE」という修学旅行テーマをずっと続けていきたいと思います。



国際理解 LHR

国際理解係 小倉 麗華

11月11日(木)、第1体育館にて国際理解に関する講演会が催されました。今年度は、栃木県産業労働観光部より国際交流員の孫甜様にお越しいただきました。普段は県庁で勤務され、中国からお客様がいらした際の通訳や県内の学校で実施される国際理解講座を担当されています。本校では「中国を知ろう!」の演題のもと、中国の文化や学校制度、人気のある職業など、教科書やメディアであまり取り上げられないことを知る貴重な機会となりました。隣の国でさえも異なることや知らないことがたくさんあり、それを知ることみなさんが世界に興味を持つきっかけになれば嬉しいです。



ハーフマラソン大会

11月9日(金)に予定されていた第19回足利南高等学校ハーフマラソン大会は、雨天のため中止となってしまいました。

生徒達からは「走りたかった。」「別の日に出来ないんですか?」「最後にチャレンジしたかった...」などの声が聞かれ、実施出来なかったことが非常に残念に思えました。授業でのハーフマラソン大会の練習、で自分の限界にチャレンジしていた生徒やペースを考え、着実に大会に向け調整している生徒にとっては残念な結果となってしまいました。

しかし、伝統あるハーフマラソン大会を、来年は、快晴のもとで第20回大会が実施できることを切に願いたいと思います。

最後になりますが、PTA会長をはじめ保護者の方々には、事前の準備や豚汁の配布のお手伝い等をいただき本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。

保健体育科 新井 正道



活躍する足南生

ウエイトリフティング部

「国民体育大会に出場して」

3年4組 小泉 直也(協和中出身)

私は10月4日から8日まで福井県小浜市の小浜市民体育館でおこなわれた第73回国民体育大会ウエイトリフティング競技会に出場しました。

私は大きな大会になればなるほど、練習での力を発揮できずに終わることがありました。国体も一ヶ月前からとても緊張していました。試合当日は、応援してくれる仲間や先生方のおかげでリラックスした状態で臨めたと思います。結果はスナッチで試合ベストを挙げて7位、クリーン&ジャークでは県高校新記録を挙げて2位という素晴らしい結果を残すことができました。ウエイトリフティングを三年間やってきた中で最も良い試合となりました。

三年間の目標であった一位になることはできませんでしたが、全国大会という大きな舞台で試合することは滅多にないことなので、とても良い経験となりました。



演劇部

「NHK杯に出場して」

2年1組 大月 芽伊(佐野西中出身)

春に開催されたNHK杯栃木県予選を勝ち抜き、全国高校放送コンテストに参加してきました。

私の書いた「魔法のココア」という作品は、家族の温かさ、成長と心の変化、親からの大きな愛を重要視しました。また、この物語に合うように、同じ演劇部の酒巻さんに完全オリジナルのピアノ曲を作ってもらい、作品に花を添えてもらいました。

今回のNHK杯は、自分自身で初めて書いた台本での参加で分からないことだらけでしたが、先生や周りの人と協力をして一つの作品をより良く作り上げたので、その成果が結果として出たのでとても嬉しかったです。



発行：栃木県立足利南高等学校

教務部広報係

TEL：0284-72-3119(事務室)

FAX：0284-73-2772

TEL：0284-72-3118(職員室)